

島田 沙絵 (長崎南高一青学大-JMS)

飛躍へのリスタート



チームTシャツを手に「仕事と走りで長崎への感謝を形にしていきたい」と話す島田
＝西彼長与町、チョープロ

チョープロ陸上部

女子100㍎の第一線 感謝の思いの強さ。「うで戦う島田沙絵は今春、まくいかないときも変わ東京から長崎へ拠点を移らざる見守ってくれた人たした。3年間勤めた会社ちの近くで走って、結果「JMS」を辞め、各種で恩返ししたい」競技のアスリートを受け 流れるような加速を持入れているチョープロに ち味に、ジュニア期から入社。この思い切った決 活躍。青学大時代は40断を後押ししたのは、自 O㍎リレーメンバーとしらの原動力となっている。 昨年は高校3年時の自己地元の家族や友人らへの

ベスト(11秒83)を0秒 02更新した。 半面、ここ数年は心か ら満足できたシーズンを送れていない。「日の丸 が目標だけど、ずっと届 かなくて」。焦りは重圧 となり、昨季は自分の走 りを見失いつつあった。 転機は昨年10月の茨城 国体。準決勝で敗退した 後、くすぶる思いを長崎 のチームスタッフに打ち 明けると、親身に相談に

「長崎に暮らす人の生 活を支えるエネルギーの 会社。仕事と走り、長 崎への感謝を形にした い」。古里から飛躍への リスタートを切る。

しまだ・さえ 長崎市出身。古賀小4年で陸上を始め、東長崎中3年の全国中学大会200㍎で全国初入賞(8位)した。100㍎は長崎南高時代に国体とインターハイで計5回入賞。青学大2年時に日本選手権6位、日本学生対校選手権400㍎リレー優勝。自己ベストは11秒81。164㍎、54㍎。25歳。

新戦力

期待のルーキーたち

本来ならば、陸上のトラックシーズンを迎える季節。今年は新型

コロナウイルス感染拡大の影響で、開幕が早くとも7月以降にず

れ込んでいるが、春に長崎の実業団へ加入したランナーたちは元気に始動した。イレギュラーな状況の中、それぞれの目標に向けて走りだしたMHPスマラソン部と十八銀行女子陸上部のルーキー、チョープロ所属となったスプリンターを紹介する。

(黒川美穂子、則行優志、中島宙)

乗ってくれた。その際に紹介されたのがチョープロだ。

現在8競技17人の「スポーツ社員」が在籍し、仕事と競技を両立できる環境。大学卒業後から1人で活動してきた身にとつては、何より目標や悩みを共有できる仲間の存在を心強く感じている。